

チリ軍事クーデター 50 年

—— 1973.9.11 を忘れない

Never Forget September 11, 1973



1973年9月11日のサンチアゴ
Norma Torres 作 1990年ごろ

クーデターで何が起き、人々はどのように生き、抵抗し、軍政に打ち勝ったのか？

今から50年前の1973年9月11日、南米チリでピノチェト将軍が率いる軍がクーデターを起こし、アジェンデ人民連合政府が倒されました。何万人もの人々が殺され、投獄され、行方不明になりました。平和的に成立し民主的改革を実行していた政権が米CIAの支援を受けた軍の力で倒され、世界に衝撃を与える大事件となりました。

家族を奪われた女性たちは軍事政権に必死で立ち向かい、様々な抵抗運動をしました。そしてアルピジェラに描きました。軍事政権の下で何が行われ、自分たちがどう生き、闘ったのかを記録し、世界の人々に訴えるために。アルピジェラを通してチリの人びとの声に耳を傾け、選挙で勝利して民主化に成功するまでの歴史を振り返ります。

チリのキルト＝アルピジェラ——チリ現代史の語り部

イスラ・ネグラが発祥地

アルピジェラはチリの民俗工芸としての伝統をもっています。百年前にイスラ・ネグラ(チリの海岸部の地方)で発祥、民衆の日常生活を描いていました。イスラ・ネグラに住んだ詩人のパブロ・ネルーダも敬意を払いました。「新しい歌運動」で有名なビオレータ・パラもアルピジェラを作りました。ギターから鳥が飛びたつ図や独立戦争の闘い、クエカ踊りなどユニークな作品です。パリで高い評価を受け、ルーブル美術館で一ヶ月以上にわたり個展を開き、大好評を博しました。

軍政下の体験を表現

アルピジェラが新しい展開を見せたのは1973年9月の軍事クーデター以降。ピノチェト将軍による独裁体制で

多くの人が政治犯として逮捕され、行方不明となりました。新自由主義経済の導入や倒産、失業などにより貧富の差が激しくなりました。貧困地区の女性たちは自分の体験をアルピジェラで表現するようになります。女性たちは作業所に集まって共同で作りました。輪になって作りながら、辛い経験を共有し、支え合います。1978年からは海外からの連帯活動により制作出来るようになりました。アルピジェラの作業所はサンチアゴ中に広がり、数百ヶ所に上がりました。

1990年、ピノチェトの独裁が終わった後は、独裁中に起きたことを忘れてはいけないと考えて、アルピジェラに描きました。

関連イベント アルピジェラ・シンポジウム

チリ軍事クーデター 50 年を記念する講演と歌の集い

2023年9月10日(日) 14:00~16:45 サンホールマツシロ

講師 ロベルタ・バチチ Roberta Bacic (北アイルランド、Conflict Textiles 創設者)

酒井朋子 (京都大学人文科学研究所 准教授) 伊藤千尋 (ジャーナリスト、「九条の会」世話人)

歌による交流 「Gracias a la vida (人生よありがとう)」 「おいで一緒に」 「ベンセレーモス」 など

1. クーデター

1



1973年9月11日のサンチアゴ
作者 Norma Torres 1990年ころ

2



刑務所として使われた国立競技場
作者 Rosario Concha 1990年

2. 政治的抑圧

3



足で火を消す
作者 Rosario Concha 1990年ころ

4



ピサグアの政治囚たち
作者 Eliana Astorga 1990年ころ

3. 追悼

5



ロンケン 死者たちはここに眠る
作者 Blanca Perez 1990年

6



死者たちのために
作者 不明 1990年ころ

4. 抵抗運動

7



放水車での行動鎮圧
作者 不明 1990年ころ

8



MCTSAのデモ：拷問に罰を
作者 Anonymous 1980年代後半

5. 行方不明者はどこに？

9



彼らはどこに？：プラカード
作者 Violeta Morales 1990

10



彼らはどこに？：
作者 Irma Muller 1990

1. 1973年9月11日、クーデターでモネダ宮殿(大統領官邸)が戦闘機と戦車で攻撃された。アジェンデ大統領は武器をとって闘い、倒れた。

2. 国立競技場には数千人が拘禁。映画「ミッシング」(ジャック・レモン主演)にも描かれる。歌手のビクトル・ハラがここで虐殺された。現在はビクトル・ハラ競技場の名前を冠している。

3. 立ち上がった人びとのデモは暴力的に鎮圧された。政治行動に関わったと疑われた人は突然姿を消し、多くの人が後に遺体となって発見された。

4. ピサグアは太平洋に面したチリ北部の港。1990年に強制収容所に墓地が発見され、20の遺体が発掘された。科学捜査班が訪れる。「海を目の前にし、天然の要害である山々を背にして、逃げ出すことは不可能な場所で、逃亡を企てたとの理由で殺害された」

5. ロンケンはサンチアゴから30kmの町。1978年11月、廃坑から15人の遺体が発見された。クーデター直後に逮捕され行方不明になっていた農民運動の指導者たちと判明。1979年2月、1500人がロンケン廃坑に向け5キロを行進、犠牲者を追悼し、ネルーダの詩をきざんだレリーフを壁にとりつけた。

7. デモがあると放水車がすぐに来て弾圧します。これに対抗したのが電撃デモ。突然現れて横断幕を掲げてアピール、さっと消えてしまう。

8. 軍による拷問がひろく行われ、サンチアゴ市内には拷問の館が160ヶ所以上に。MCTSAはセバスティアン・アセベド拷問反対運動の略。1983年、二人の子どもが当局に連れ去られ聖堂の前で焼身自殺をはかった父親の名前をとって作られた。MCTSAのデモは軍事政権による弾圧体制をかいくぐって行われた電撃デモだった、と高橋正明氏がfacebbkに書いています。

9. 軍事クーデターから1年後の74年末に行方不明逮捕者家族会(ADFF)が誕生。77年から夫や父親、息子の消息を求めてハンスト、集会、デモなどの活動を始めました。

6. 孤独なクエカ



孤独なクエカ (青と橙色)
作者 Ana Rojas 1990年

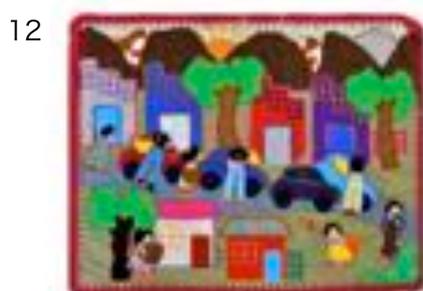
抵抗のダンス「孤独なクエカ」

クエカはチリの伝統的な民族舞踊で、男女がペアで色彩豊かな衣装を着て踊ります。オンドリと雌鶏との間の求愛に模したユニークな踊りです。行方不明逮捕者家族会 (ADFF) に属していたガラ・トレスはチリの伝統音楽を演奏するグループを結成、クエカ・ソラを作詞作曲し、独特の方法で踊ることにしました。「クエカは本来、男女のペアで踊ります。でも私たちのパートナーは奪われてしまいました。世界の人にそれを知ってもらうために女性が一人で踊ることにしたのです」。犠牲者の写真を胸につけて一人で踊るクエカ・ソラは軍事政権の人権侵害を非難する抵抗のダンス、闘争の象徴になりました。1990年、イギリスのミュージシャン、スティングが曲を作って歌い、世界的に有名になりました。

7. ポブラシオンの日常



ポブラシオンでの政治アピール
作者 不明 1990年ごろ



車の窓ふき
作者 L.A. (詳細不明) 1990年頃

ポブラシオンの日常……ポブラシオンとは都市周辺部に広がる低所得者層の団地。サンティアゴ市だけで400以上のポブラシオンがあり、市の人口4百万人の三分の一から半数が居住していた。貧困と政治的抑圧にもかかわらず、どの作品も人々が共同して働き、明るく希望にあふれている。



ポブラシオンの洗濯所と共同なべ
作者 不明 1990年頃



FASICのアルピジェラの作業所
作者 Maria Meneses 1991年

21. 「政治犯を釈放せよ」「ピノチエトを追い出せ」「真実と正義を」「行方不明者はどこに」などと訴えています。

12. 失業した人形たちは生活のためになんでもやる。道路で自動車の窓拭きをしたり駐車中の乗用車の番をする者もいれば、街頭で「店」を広げる露店商もいる。

共同なべ……住民たちは互助組織をつくって苦しい生活を支えあった。その代表格が共同なべやアルピジェラの作業所である。

共同なべはハルディ氏の調査では組織数201、活動家4,191名、受益者24,131名に上るとされています。(高橋正明著『チリ嵐にざわめく民衆の木よ』大月書店)



野菜シチューの共同なべ
作者 不明 1990年頃

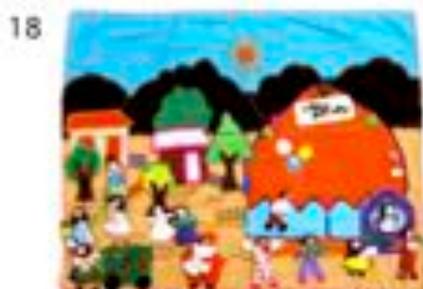


警察監視のものと共同なべ
作者 N.A. (詳細不明) 1990年頃

17. 連帯病院に来院する患者を奉仕で診察している若い女医のセシリアはいう。「栄養失調にかかっている子供たちは1年に1回健康診断を受けるだけです」。人民連合の時代にはこうした健康診断は1年に4回おこなわれていた。だが今は当時とは時代がちがっているのだ。彼女はつづける。「1973年以前には15才までの子供たちに牛乳を与えていました。今ではわずか2才までです。食堂にくる17人の子供のうちわずか5人だけが標準体重です」(チリ連パンフ「サンチアゴ・レポート」)



救急診療所
作者 L.C. (詳細不明) 1990年頃



サファリ・サーカス
作者 L.H. (詳細不明) 1990年ごろ

8. 独裁体制の終わり

19



チリは一体となってノーを叫ぶ
作者 L.C. (詳細不明) 1990年ごろ

20



グッバイ ピノチェト！
作者 不明 1980年代

19. 1988年10月のピノチェト信任の国民投票にむけてピノチェト・ノーを掲げ、ピラを配りながら練り歩く人びと。ノーの勝利により、民主主義の闘いが軍事政権を倒すこととなります。

20. 女性たちが横断幕を持ってデモ行進をしています。ひとつは「ピノチェトを追い出せ！」もうひとつは「さようならピノチェト！」。

軍政と闘った『人生よ ありがとう』

ビオレータ・パラはチリの音楽の不滅の象徴となる『人生よ ありがとう』を作ったあと、社会主義政権の成立を眼にすることなく自殺します。アジェンデ人民連合政府が成立し、新しい歌運動でこれを支えたビクトル・ハラが『人生よ ありがとう』を歌うことにより、この歌はチリ中に広まりました。軍事政権は『人生よ ありがとう』を禁止。しかし地下のライブハウスで、軍政に抗議する集会で、この歌は歌われました。ピノチェトは88年、信任投票を実施して敗北。サンティアゴ市最大のオヒギンス公園には数十万人が参加して勝利を祝う大集会、歓喜の中で『人生よ ありがとう』が歌われました。

日本のチリ連帯運動とアルピジェラ

1973年、ピノチェトの軍事クーデターで血の弾圧が始まると、世界中でチリ人民連帯の運動が起りました。日本では1974年2月にチリ人民連帯日本委員会(チリ連)が結成され、アジェンデ未亡人歓迎集会やチリの音楽家の公演、演劇、映画、ネルーダ追悼集会、チリ大使館へのデモなど多彩な運動を繰り広げます。運動の一環としてアルピジェラを輸入し、販売しました。1981年3月、チリの民政移管を見届けてチリ連は解散、その後、保有していたアルピジェラは大島博光がチリ連代表幹事をしていた縁で大島博光記念館に寄贈されました。



チリ連帯キラパジュン東京公演(1976年)

大島博光記念館とアルピジェラ

大島博光記念館はチリ連から譲り受けたアルピジェラ約120点をもとにテーマを決めて展覧会を開いています。

- 2013年 チリのキルト=アルピジェラに会う
- 2017年 軍政下 チリの人々の暮らし
- 2018年 軍政下 女性たちの暮らしと闘い
- 2019年 アルピジェラに描かれた軍事クーデター
- 2020年 抵抗のダンス 孤独なクエカを踊る
- 2021年 仲間と一緒に作る
- 2022年 軍事政権に抵抗する

勝利に導いた1日15分のテレビ宣伝

1988年の国民投票では反軍政で統一した「ノー」が強大な軍事政権に勝利します。これには1日15分だけ許されたテレビ宣伝が決定的な役割を果たしました。

……15分の短い放送にもかかわらず、「ノー」の番組は絶大な効果を生んだ。15年間にわたってブラウン管からは軍政側の決まり切った宣伝文句しか聞こえてこなかった。その同じ画面から、突然、それまで沈黙を強いられてきた声が、豊かなイメージ、美しい色彩、新鮮な表現でとびこんできた。15年間、テレビの世界には弾圧も、拷問も、殺害も、行方不明も、国外追放も、亡命、貧困も一切存在しなかった。しかし「ノー」の番組は視聴者一人一人が抱えている問題を正面から取り上げた。15年間で初めて、人々は自分たちが蒙っている問題をテレビの画面に見た。自分の問題が他の人たちの問題でもあることを確信したのである。(有延出「チリよ、喜びはもうすぐやって来る」『文化評論』1989年1月号)

映画「NO」は知識人や芸術家、広告マンが協力して宣伝番組を制作し、情勢を変える様子を描いて感動的です。



映画「NO」(パブロ・ラライン監督、チリ2012年)

犠牲者の名誉を回復

民政移管後、軍政下の人権侵害・弾圧調査が始まり、92年に補償法が作られました。人民連合政府を支えて犠牲者となった人々の名誉が回復され、遺族には保障として年金が支払われています。2010年に政府により「記憶と人権博物館」が開設され、犠牲者を追悼し、軍事独裁政権下での人権侵害の実態を展示しています。

併設展 没後50年 パブロ・ネルーダ展

詩を武器に闘い、クーデターの中で倒れたネルーダの波乱の生涯と豊かな作品世界に光をあてます。

2023年5月3日～12月28日 主催 大島博光記念館 後援 信濃毎日新聞社 長野市民新聞社 週刊長野新聞社
大島博光記念館 長野市松代町清野 2567-1 電話・FAX 026-278-1004